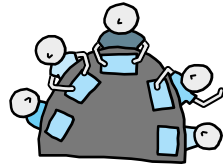


支えあって人がつながる

認知症高齢者とその家族を支える地域づくりアンケートから

- 認知症だからといって身構えずに、本人・家族・ご近所さん等みんなで話す機会や行事などで、身近な問題としていろんな事を考えられると暮らしやすくなると思います。(20歳代 男性)
- そもそも、認知症がどういう病気、どんな症状が出るのかわかっていない。まず、認知症という病気についての理解をもっと広めて初めて地域のことを考えられるのではないかと思います。(30歳代 男性)
- 家族だけでは限界があるので、町内や福祉関係の方からも助言や施設の利用の手助けをしてほしい。そうでないと、長期の場合成り立たない。地域でもできるだけ暖かく見守れる人間関係を持ちたい。(50歳代 女性)



認知症サポーター養成講座の開催

昨年度に続き今年度は市内35の小中学校で「認知症理解のための絵本教室」を開催しています。
また、県立高校初となるサポーター養成講座を長浜北星高校「家庭看護・福祉B」の授業で、続いて長浜高校福祉科（1年生）でも実施しました。
社会人向けの講座もあり、昨年は警察や金融機関、長浜市企業内人権教育推進リーダー養成講座をはじめ、各地の自治会・老人会・サロンなどにおいても養成講座を開催しました。
6月末時点での認知症サポーターの人数は3,937人、今年度末には6,000人を超える見込みです。人口の1割の以上を目標に今後も裾野を広げていきます。



認知症あんしんマップを作りました

認知症になっても住み慣れたまちで安心して暮らすための地域資源マップを作成しました。認知症対応型通所介護施設・グループホーム・小規模多機能型施設や認知症相談医の所在地や連絡先の他、認知症の疾患について、自己診断チェック表や予防するためのポイントなども記載しています。
市役所各支所の窓口、介護あんしん窓口の他、認知症関係事業所に配置しています。
また、市ホームページにも掲載しています。



あなたも認知症キャラバンメイトになりませんか？

市では、229人の登録があり、一般キャラバンメイト（小中学校・地域の各種団体担当）と専門職キャラバンメイト（官公庁・企業担当）に分けられます。
キャラバンメイトの活動を通して、地域の住民に認知症の正しい理解を啓発するだけでなく、自分自身の今までの認知症の方への対応を振り返ることもできます。自分によし、サポーターによし、地域によしと「三方よし」です。

■地域包括支援課
長浜地域包括支援センター〈市役所東別館1階〉（☎65-7841）
北部地域包括支援センター〈木之本支所1階〉（☎82-5905）

どこで認知症の診断を受けられるの？

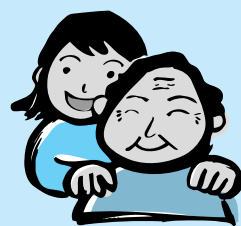
認知症じゃないかと不安...

どんなサービスがあるか知りたい

ケアの仕方がわからない...

認知症ケア相談員に相談してみませんか？

- 認知症の病気、その症状について
 - 認知症の人の対応・介護の仕方
 - 介護保険サービスの紹介
 - 医療機関（認知症相談医）の紹介
- ※来庁、訪問、電話での相談が可能です。（左記まで問合わせください。）
※匿名でも相談していただけます。
※相談は無料です。



認知症への理解を広めるために

誰もがいつまでも安心して暮らせるまちをつくるため、世代を超えての取り組みが行われています。
ここでは認知症キャラバンメイト*として活躍するお二人と、認知症サポーター講座を受けた虎姫中学校3年生のみなさんにお話を伺いました。

認知症キャラバンメイトとしての使命感を感じる毎日です
〜掛 勇さん・高橋 照さん〜

認知症理解のための絵本教室を受けて
〜虎姫中学校3年生の皆さん〜

認知症キャラバンメイトになられたきっかけは？

●最大の理由は7年ほど前、自分の父が認知症になったことです。当時は認知症に関する知識も全くなくて介護をするのがとても大変でした。今から考えると、相手の立場を全く考えず怒ってばかりで、父には悪いことをしたと思います。そんな思いを自分の周りの人にはしてほしくないから、お誘いを受けたときに即断しました。

●もともと介護相談員や民生委員をさせていただいている中で、認知症に関心を持ち、その知識も必要と感じたので、近江八幡で行われていたセミナーに参加しました。今は長浜でも行われていますが、こうして勉強したことはとても役に立っています。

認知症キャラバンメイトになってよかったと思うことはなんですか？

●学校や自治会の集まりなどで、お話をさせていただくと、非常に熱心に聴いてくださることにやりがいを感じます。地域での生活の中でも、困っている人を見ると放って置けなくて、「自分はキャラバンメイトなんだ」という意識が働き、おせっかいもさせていただいています。

●認知症に対する知識を身につけることができました。キャラバンメイトの活動以外にもいろいろなボランティア活動をしています。地域のサロンなどでも認知症について気軽に話せるようになりました。サロンの参加者の中には90代の認知症のおばあさんがいますが、周りのみんなが、その人を上手にフォローして楽しくやっていくという雰囲気生まれています。少なくとも私が住む地域では誰が認知症なのかを把握していて、地域ぐるみで助け合っているという「つながり」ができています。これを長浜全体に広めていきたいと思っています。

今後、どんな活動をしたいですか？

●もっと若い世代に私たちの講座を受けていただきたいです。自治会での講座などでも若い人の出席が少ないのが現状です。婦人会などでもお話をさせていただけたら嬉しいですね。



※「認知症キャラバンメイト」とは認知症を正しく理解し、地域で支えていこうとするサポーターを養成するための講師役を務めてくださる人たちです。

中学生の立場から大人に伝えたいことはありますか？

●認知症とは関係ないけれど、こちらがあいさつをしても返してくれない人がいる。最低限、あいさつを返すくらいはしてほしい。そうしないと地域のつながりなんて生まれない。

●認知症に対して偏見があるから、必要以上に怖がって、理解が進まないのだと思う。偏見や差別はやめてほしい。

●今日の講座を受けて自分ができることは何ですか？

●家に帰って家族に教えてあげることができる。今は家族に認知症の人はいないけど、今後対応の仕方に困ったら、今日の講座を活かせると思う。

●友達と認知症の話をするのは変かも知れないけど、もし「ボケ老人」とか、良くない発言をしていたら、注意することはできると思う。

